

台湾日式建築の魅力 ～なぜ在り、残り、活かされるのか



台北市・楽生療養院

「古き良きレトロ建築」が台湾の観光資源としても注目されている。1895 年から 50 年間、日本の植民地であった台湾には、その時代に建てられた官民の近代建築が全土に多く残されている。それら次々とリノベーション・修復・再生され、アートや飲食、社会教育の空間として注目されている。その背景には台湾人の苦悩とアイデンティティ獲得の歴史が刻まれている。実例をもとに「なぜ残され活用されているのか」を考えてみたい。（渡邊義孝）



台南市・台南地方法院



台中市・旧台中駅舎



日 時： 2026 年 8 月 29 日（土） 14：00～ 16：00

開催方法： Zoom を利用（視聴用 URL は開催日 2 日前までにお送りします）

参 加 費： UIFA JAPON 会員・学生：無料 非会員：1000 円（振込み）

有料参加の方にはお申し込み後、参加費振込口座をご案内します

講 師： 渡邊義孝氏 一級建築士、『台湾日式建築紀行』著者

申込方法： お申し込みは 8 月 25 日（火）までにメールでお送りください

UIFA JAPON 事務局（小池）：kyk-25@hb.tp1.jp

メールには、お名前、所属、メールアドレス、電話番号を記載してください



渡邊 義孝（わたなべ よしたか）氏 プロフィール

一級建築士、尾道市立大学非常勤講師。NPO 尾道空き家再生プロジェクト副代表理事。文化財調査や民家再生の業務のかたわら、ユーラシアの民俗建築・植民地建築のフィールドワークを続ける。著書に『台湾日式建築紀行』（KADOKAWA）、『旅の建築フィールドノート術』（学芸出版社）、『風をたべた日々』（日経BP）。共著に『台湾を知るための 72 章』（明石書店）、『アゼルバイジャンを知るための 67 章』、『市民がまちを育む一現場に学ぶ「住まいまちづくり」』（建築資料研究社）など。台湾華語（中国語）版では『臺灣日式建築紀行』『臺南日式建築紀行』がある。